

八戸ブックセンター 開館5周年記念ギャラリー展

中高生に伝えたい三浦哲郎

令和3年5月22日(土)～8月22日(日)

16歳

昭和二十二年(一九四七)年

旧制八戸中学校籠球部時代。終戦後は、バスケットボールに熱中。俊足の三浦は「ハヤブサの哲」と呼ばれ、フォワードで活躍した。三浦たちのチームは、1947年に開催された第2回国体に県代表として出場し、準決勝まで進出した。



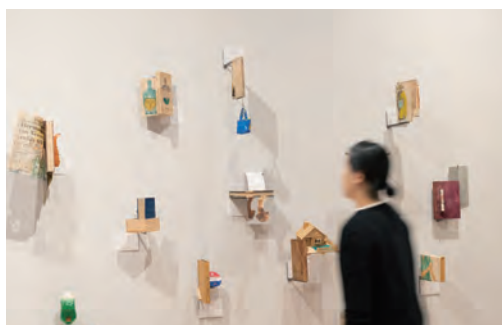
本のみち



八戸ブックセンター



20作品の「本」を木のオブジェとして展示。本の内容にある「暖かさ」「家族」などを多種の木材を使い分け再現しています。それぞれの「本」にはお持ち帰りいただける「あらすじ」もご用意しました。



「盆土産と十七の短篇」(中公文庫)よりそれぞれの短篇の物語を追想できるようオブジェ化しています。執筆された内容を独自に解釈し、小説の自由な読解を空間に展開しています。



八戸^{フット}寿都^{フット}を行き来した美濃部回漕店の舟券の裏面に年譜を印刷し、5つの年代の三浦哲郎の姿をイラストで紹介。港町・八戸をルーツとする三浦哲郎の生涯を、自分の年齢と照らし合わせながら、ビジュアルからも追想することができます。



小説家の視点で読む「盆土産」の書評をご紹介します。作品に隠されたテクニクに触れるなど、これから作品を読む方はもちろん、これまで愛読されてきた方にもぜひご覧いただきたいテキストです。



今では貴重な三浦哲郎の本を古本で販売しています。ぜひ展示と合わせ、この機会に手にお取りいただけますと幸いです。(古本ですので、在庫限りの販売となります。お早めに。)

「忍ぶ川」や「白夜を旅する人々」などで知られる八戸市出身の作家・三浦哲郎は、今年2021年に生誕90周年、そして芥川賞受賞60周年となります。八戸ブックセンターでは、中学生、高校生をはじめとする若い世代の方にも改めて興味を持っていただき、長く読み継がれていかれるきっかけとなるようなギャラリー展を開催いたします。

展示の監修は、八戸ブックセンターオープン初年度にギャラリー展「のどの文字、間の無光」で本を素材にした彫刻作品を出展して下さった、彫刻家・美術家の飯田竜太さんです。三浦作品をモチーフにした彫刻作品や、作品に登場する方言の響きを楽しむ映像、物語を彩る食べ物にまつわるインスタレーション作品、そしてはじめて三浦作品に触れる方へ興味の入り口となるようなテキストなどが飯田さんによって演出され、あらたな視点で作品を楽しむことができるような展示空間が広がります。これまでなかなか作品を読む機会がなかったという方もぜひご来場ください。

八戸ブックセンター 開館5周年記念ギャラリー展

中高生に伝えたい三浦哲郎

令和3年5月22日(土)～8月22日(日) 10:00～20:00 入場無料

展示構成・制作

飯田竜太(彫刻家・美術家)

三浦哲郎イラスト

高橋将貴(イラストレーター)

朗読・映像

榎谷伸夫(八戸市公民館長)

「盆土産」書評

藤谷治(小説家)



八戸ブックセンター
HACHINOHE BOOK CENTER

問い合わせ・イベント申し込み

青森県八戸市六日町16-2 GardenTerrace1F

開館時間 10:00～20:00

休館日 毎週火曜(祝日の場合その翌日)

電話番号 0178-20-8368 <https://8book.jp>

朗読&トークイベント

『「盆土産」を南部弁で楽しむ』

8月21日(土) 14時～

朗読: 榎谷伸夫

講師: 岩崎真梨子(八戸工業大学)

いまも中学校国語の教科書に載っている「盆土産」を、榎谷伸夫さんによる南部弁の朗読での鑑賞とともに、方言によって生まれる表現の豊かさなどについて、八戸工業大学の岩崎真梨子さんが解説します。

トークイベント

『中高生に伝えたい三浦哲郎』

7月24日(土) 14時～

ゲスト: 飯田竜太

展示デザインを監修した飯田竜太さんに、三浦哲郎の作品の魅力や、展示会のみどころを伺います。

※関連イベントは新型コロナウイルスの感染者数の状況によって開催中止とさせていただきます。

